

音 楽 交 流 会 【高学年 4 - (1)】

- 特別活動との関連を生かして -

(1) 主題名 自分の役割〔 4 - (1)〕 関連項目〔 4 - (5)〕

(2) ねらい 身近な集団に進んで参加し、自分の役割をめざして主体的に責任を果たそうとする心情を育てる。

(3) 資料名 「音楽交流会」

(4) 授業の展開例

	学 習 活 動	主な発問と児童の心の動き	留 意 点
導 入	1 学校や学級における役割分担について発表する。	今まで、どんな活動をみんなで協力してきましたか。 ・運動会や修学旅行 ・委員会や給食当番を協力してやりました。 今、出した中で、責任感を持ってやっていけたのは、どれですか。 ・運動会で応援を責任持ってやりました。 ・委員会で仕事を最後までやりきりました。	価値への方向付けをする。 発表しあって、学習への参加意欲を持たせる。 授業のキーワードの、「責任」を明確にする。
展 開	2 「音楽交流会」を読んで話し合う。 3 今までの自分の生活を振り返って、話し合う。	みんなが集まってきた時、みき子はどんな気持ちだったでしょう。 ・自分の失敗で・・・ ・みんなに迷惑をかけてしまう。 ・片手でもやりたい。 お母さんの励ましを聞きながら、みき子はどう思ったでしょう。 ・少しでも練習をがんばろう。 ・完全に治ったらみんなが歌いやすいようにがんばるぞ。 今までに、いやなことにも逃げ出さずにやり遂げていったこと、責任を果たしていったことを交流しよう。 ・集会の準備があったので、遊びを我慢してみんなと一緒にやった。 ・頼まれた掃除を最後までやり遂げた。 ・スポーツ少年団のキャプテンとして、何事にも積極的に行っている。	立候補した時の気持ちを確認させる。 みき子の根底にある、責任を果たそうとする気持ちに気付かせる。 学校や学級の係分担だけでなく、広い範囲での責任について考えさせるために、ワークシートを使用する。
終 末	4 教師の説話を聞く。	・みんなの中で責任を持つということは大切なんだなあ。	日常生活において、責任を果たそうとすることの大切さを考えさせる。

音楽交流会

みき子は、ピアノが得意で、スポーツの大好きな小学校六年生です。

みき子の住む町では、町内の小学生が集まって合唱や合奏を発表する「音楽交流会」が毎年開かれます。

昨年は、みき子たちは銀賞をもらいました。今年は小学校生活最後なので、みんな金賞をとろうと気合が入っています。合唱の曲が決まり、みき子はピアノ伴奏に自分から立候補しました。それからみき子は、時間を見つけてはピアノの前にすわり練習するようになりました。

音楽交流会まであと二週間になりました。今日は、みんなで合わせて練習をすることになっていきます。しかし、練習がなかなか始まりません。伴奏者のみき子がきていないのです。みんなが待っている、ガラガラと入口の戸が開きました。そこには、左手にほうたいを巻いたみき子が立っていました。

「その手、どうしたの。」

みんながみき子のまわりに集まってきました。

昨日の休憩時間のことです。みき子は、外でドッジボールをしていました。ひろ子が、

「みき子ちゃん、音楽交流会まであと少しだから、やめた方がいいよ。」

と言いましたが、みき子は、

「気をつけながらするから、大丈夫よ。」

と気にしませんでした。でも、やり始めると夢中になるみき子。友だちが投げたボールを、とろつとした瞬間、

（痛い！）

左手のひとさし指をついてしまいました。

お医者さんからは、

「全治一週間です。それまで片手でしか伴奏はできないよ。」

と言われたのでした。それを聞いたみき子は、ずきつと心が痛みました。

「ごめん。片手だけでも伴奏をさせて・・・。」

と、みき子はつつむきながら言いました。みんなは、何も言えなくなりました。

少したって、ひろしが、

「片手だけの伴奏でも合奏することができるよ。練習を始めよう。」
と、はげますように言いました。

昨年より難しい曲に挑戦し、みんながんばってきたのです。ところが、片手での伴奏では思っようにいきません。それでも、みんなは大きな声を出して歌ってくれました。

練習が終わって家に帰ったみき子は、夕飯のときも元気がありません。お母さんが、

「みき子、学校で何かあったの。」

と心配そうにたずねました。

「練習がうまくいかなかったの・・・。」

と、みき子はぼそつと言いました。

それから、今日の練習のことをぼつりぼつりと話していきました。じつと聞いていたお母さんは、

「みき子、今年は金賞を取るってみんなとがんばっているんですよ。みき子も伴奏者に選ばれて、毎日練習してきたじゃない。みき子には最後までがんばってほしいわ。」

お母さんの言葉を聞きながら、みき子は、今日のみんなの姿を思い出していました。



活用に生かすための実践報告

「音楽交流会」

1 主題の設定

高学年になると、学校での委員会活動やクラブ活動、地域の少年野球やサッカーなどの集団活動を通して、責任ある役割を受け持つ経験が多くなる。しかし、個々のよさを認め、互いに向上することができなければ、主体的な参加と責任ある行動の育成は望めない。そこで、集団活動に積極的に参加し、協力し合ってそれぞれの責任を果たす姿勢が持てるような指導と助言が必要である。学校だけでなく、家庭でも家族の一員として自分に何ができるか相談して、役割を分担して責任を果たし、認めてもらうことで、集団の中での自分の役割を自覚し、責任を果たそうとする心情を育てたい。

本資料は、音楽交流会で、金賞に向けてピアノ伴奏を頑張るみき子がつき指をしてしまい、片手で練習をするが、みんなとの練習がそろわず、うまくいかない。そんな中、家で落ち込んでいると母に励まされる。そして、励ましてもらったときのみき子の心情に共感しながら、児童一人一人が自分の日常生活と重ね、ねらいにせまることができたかと考える。

2 指導過程の工夫

指導過程においては、導入部分から、最後まで「責任」をキーワードに授業を流していくことによって価値を明確にした。

この資料は、遠足・集会活動での班活動の計画、準備をする場合の事前に扱うとよいと考える。また、総合的な学習の時間や体験活動の事前・事後に本資料を扱い、責任や役割について考えを深めるのもよい。

3 発問の工夫

中心発問である励ましてもらった後のみき

子の気持ちを考えることにより、みき子の根底にある、責任を果たそうとする気持ちを押さえる。そのことにより、自分の役割をめざして責任を果たそうとする心情を持つことができるかと考える。

4 児童の反応

（励ましてもらった後の気持ちを考える）

- ・みき子はお母さんに励まされた後、本当に弾けるかなと不安だったけどやってみるだけやってみようという気持ちになったと思います。
- ・伴奏者に立候補して、選ばれたのだから、最後までしようとする気持ちになった。
- ・みんなもがんばって歌っているのだから、自分もがんばらないといけなかった。
- ・明日からもがんばろう。みんなが一生懸命がんばっているから。

5 実践者からの一言

高学年ともなると、1つの役割を分担し、最後まで粘り強くやり遂げて責任を果たす児童と、がんばるが十分とはいえない児童とに、分かれるようになってくる。

自分に与えられた役割を最後までやり遂げることは、自分だけでなく、まわりの人にも満足感を与えることを実感させて、責任を果たそうとする心情を身に付けていきたい。

（総領小学校 瀬尾英寿）